

再出発へ新たな決意と情熱

総会報告 各部とも新体制を整える



2009年2月8日(日)正午から、新年度へ向けてスタートするクラブ総会が東京銀座6丁目の「高松」で開かれました。昨年6月の総会で会の存続が決まってから、各部とも展覧会や演奏会に努力、新年度も例年通り実施が決まり、その体制作りを話し合いました。会を終わるにあたって、太田怜委員長の留任を満場一致の

拍手でお願いし、また副委員長も引き続き初芝澄雄、碓井静照両氏に担当して頂きます。なお具体的な作業は、次年度も引き続き再生委員会で行うことが了承されました。

乾杯に続いて自己紹介。ひとり一人が新年度へ向けての抱負を語りました

立春を過ぎたとはいえ、まだ冷たい風に思わず背を丸めるような寒さの中を、定刻にはほぼ顔がそろいました。仕事先の都合や学会のため太田委員長と監事の山田新太郎氏から、前もって多少遅くなるとの連絡があったため、はじめに初芝副委員長の発声で乾杯。お互いに初顔合わせの會員もおり、簡単な自己紹介からスタート。出席者は新加入の2人を含め

て総勢28人(事務局2)。

それぞれが各部の中堅・ベテランだけに会員歴30年前後の方たちばかり。最古参は機関誌が「医家芸術」の前身「綜藝」であったことをご存知の安彦先生でした。お話の中で各人クラブへの深い愛着を示され、今後の活躍を誓っていました。

議題の中の最重要課題は、各部がイベントを実行できる体制づくり。食事しながら責任者を決めてもらいました。

次頁に出席者の記念写真と合わせて掲載しました(◎部長、○副部長……従来のように委員長、委員という名称は避けます。また一部は未定)。

なお、連絡事項は各部責任者から通知してもらえよう、名簿を整理する予定。このほか、協議の中で交された主な意見から拾いますと――。

「医家芸術」の季刊を確認

「機関誌」これまで予算の中で刊行費の占める割合は高く、財政圧迫の主要因で



総会出席者（各部の構成も付加）

委員長 太田 怜（中列真ん中）

副委員長 初芝澄雄（中列右から4人目）

監事 山田新太郎（中列右から3人目）

再生委員 白矢勝一（前列真ん中）

津谷喜一郎（前列左から2人目）

安井 廣迪（前列左から3人目）

各部 ◎部長 ◎副部長 出席者

《美術》

◎白矢勝一（前列真ん中）

◎安彦洋一郎（後列右から5人目）

◎榎本貴夫（後列右から4人目）

《邦楽》

◎高橋妙子（中列左から4人目）

◎山崎律子（中列左から1人目）

◎川口敷子（中列左から2人目）

鈴木浩之（後列左から5人目）

《書道》

◎小口英世（先にご帰宅）

◎新関孝

◎高嶋純子（後左から3人目）

二宮文乃（先にご帰宅）

《写真》

◎竹腰昌明（後列右から2人目）

◎雨宮 昭

◎岩瀬 光

佐久間文子（後列左から2人目）

《洋楽》

◎松木耀子（中列右から2人目）

◎小川昭子（中列右から1人目）

《文芸》

◎渡辺 晋（後列右から1人目）

◎藤倉 一郎

◎新村富士夫（前列右から1人目）

小川再治（後列左から4人目）

吉元昭治（前列右から3人目）

《短歌》

◎助川信彦

◎林宏匡（後右から3人目）

蒲谷玲子（中列左から3人目）

《俳句》

◎秋葉琢磨（前列右から2人目）

◎福神規子

した。機関誌担当の安井廣迪再生委員によると、カラー印刷をイベントの記録だけにとどめれば、印刷費用は一段と軽減できる。だから、自分の原稿にカラーを望まれるのならば自己負担を原則としたらと提案されました。そうすれば発行回数は季刊十文芸特集号が可能であり、これが了承されました。

文芸特集号は同人誌的運営で独立採算のため長編は筆者への負担が大きい。したがって会員への配布をやめることも提案されましたが、印刷経費の削減と負担金低減でこれは回避へ。一方で通常号の執筆者へ参加を促し、みんなの文芸特集号をめざしたいものです。

なお、前記のカラー負担をはじめ、投稿規程の見直しを次のように提案します。

「投稿規程」(案)

1. 会員ならば、だれでも投稿できます。

2. 2頁まで無料(1頁は18字詰め22行×3段分、約1200字強)。規定を超えるごとに1行200円の超過料金を頂きます(写真やカットも行数を含む)。



3. カラー写真は費用を自己負担(金額は未定)。

4. 入力料 Eメール、ワープロ印字(原稿用紙のスタイルにしない)は無料。手書き原稿は原則有料(短歌・俳句・川柳の他、編集側からの注文原稿は無料)、1

頁900円相当で換算。

5. 表紙賛助金 実費の一部(2万円)を負担してください。お札に20部差し上げます。

各部のページを用意して“マイ・ホビ”を語ってもらおうのはどうでしょうか(かつて同系統の企画がありました)。各部責任者の推薦で人選をすすめ、さっそく原稿を依頼します。

「ホームページの活用」会場にスクリーンを設置、クラブのホームページ(以下HPと略)をデモ展示(写真⑤)。「医家芸術」と入力して検索するところから始め、機関誌や各部の催しを縦覧しました。冬季号の各部の催し特集では、写真や書道などの紹介は1人1点でしたが、HPでは全作品を掲載しています。

HP管理人の白矢氏から随筆や短歌俳句など随時投稿してもらえば、該当ページに掲載する……との話も。そうすれば年4回という発行回数を補足できます。すぐにでも、ぜひ試みてもらいたいので



㊦㊧シャンソンの弾き語りと㊦満員の聴衆



第57回 医家美術展

平成21年7月2日(木)～5日(日)
場所:銀座「悠玄」

第48回 ドクターズ・ファミリーコンサート

平成21年10月11日(日)
開場12時00分～

場所:東京・神楽坂 音楽の友ホール

第49回 医家書道展

平成21年10月20日(火)～25日(日)
午前11時～午後6時

(初日は午後2時開場、最終日は午後2時終了)
場所:東京銀座画廊・美術館(8階)

ホームページの一部です

ですが、管理側で入力する人手がないので必ずEメールで送ってください。

このほか、「シラヤ・アートのスペース」での催しで美術と音楽のコラボレーションⅡ「写真㊦」も紹介されました。後述しますが、美術展会場でも実現したい企画です。他の医家の芸術関係のイベントに対する「後援」名義の使用、各大学の美術部や軽音楽部のHPへのリンクなども提案されました。お知り合いの方がおられましたら事務局へ連絡下さい。

「医芸に掲載したものを他の雑誌などに掲載した場合、二重投稿になるか?」他のHPの絵画など資料をコピーしても保護されていて取り込めなかった。医家芸術はどうか」という質問がありました。医芸誌に定価は付いてますが、書店にはおいておらず、「同人誌」的存在です。二重投稿については、他にも投稿する予定がある場合は、そちらにまず確認するのが望ましいと思われれます。

一方、機関誌からHPへのアップは、

作者が了解しているものとしています。個々にプリント不可にするなどの対応をすると手間がかかります。この点、ご意見がある方はお知らせ下さい。

各部が主体のイベントへ

「イベント開催」予定通り実施します。心配された部からも力強い回答がありました。問題は開催までの実務処理です。事務局が恒例どおり進めていた手順ではなく、各部主体で企画、立案してもらいます。ただ、部からの依頼によっては事務局がお手伝いしますが、その場合、発生した経費の負担割合をどうみたらいいのか、これからの課題として残っています。

美術と音楽のコラボレーション

会員相互の交流を深めたい

「楽しい会へ」ドクターズ・ファミリーコンサートのステージに立つのは、ちょっと敷居が高いと、尻込みされる会員の

気持ちももつともです。もつと気楽に仲間
間で演歌やフォークなどを歌ったり、ジ
ヤズなども演奏できました。そこで、かつ
て盛んだった「カラオケ大会」をやりま
しようという声も強くなりました。近い



創立と言う秦明小学校の近く。総会解散
後に立ち寄りました。同ギヤラリーは借
用している期間中、美術の展示だけでな
く、会場内でミニ・コンサートも開けま
す。洋楽部員のみなさんや日頃、無聊を

かこつ腕自慢のマジシャン
にも、アトラクションとして
日替わりでご出演くださる
と楽しいですね。美術は美術、
音楽は音楽とそれぞれ“独
立”状態は“孤立”に近く、
この際、積極的な交流が強
く望まれます。



◆
なお、事務局への注文にも耳
を傾けましょう。

うちに一度開きたいのですが……。

7月2日(木)～5日(日)に開く美
術展の会場「悠玄」(Tel 03-3572-2526
<http://www.gallery-yougen.com/>)は、今
回の総会議場の目と鼻の距離。明治5年

「経費節約」総会資料の送付料は郵便で
140円、宅配会社のメール便だと80円。
経費節減を図るようにと指摘がありまし
た。当然のことです。事務局も十分承知
して、音楽会プログラムや展覧会の目

録、開催案内のDMはがきの配布などに
利用しています。かつては隣接市区町村
だと翌日届いたメール便もいまは3日、
400キロ以上だと4日かかります。仮
に一番遠方から見えた渡辺晋氏(広島県
大竹市)へは水曜日発送で土曜日に配達
されます。速達料100円を上乗せしな
いと翌日配達にならない料金体系に変わ
りました。

今回の総会用資料は、会計報告が1月
31日で締めた関係上、2月2日に配達さ
れた入金伝票を処理しなければなりません
でした。結局、3日夜、監事の山田新
太郎先生の許へ出かけて監査を受け、4
日の水曜日発送になりました。5日の木
曜日に届かないと、週末は不在になる
会員もいたため、郵送になりました。で
すからケースバイケースで使い分けして
います。ご了承ください。

「20年度会計報告」熱心な話し合いが続
き解散間近になってから、平成20年4月
から1月までのクラブ財政の報告をし

した。総収入マイナス総支出は、次年度への繰越金244万円余です。しかし、この中には21年度の会費(前受金)が150人分あったり、2～3月の支出も残されています。



逆に広告収入や20年度の年会費も若干あって、借入金を全額支払うと繰越金は新年度会費だけでトントンでしょう。やっぱり余裕がない事態は変わりません。会員増と広告収入増を図らなければなり

ません。

「新年度の事務局」大出は3月末日で事務長を退き機関連誌の編集に専念することにしました。代わって西田明子が事務長代理として務めます。常駐はできません

が、イベント開催に際して、お手伝いの要請があれば、ご相談に応じたいと存じます。

電話番号やFAX番号は当分変わりません。不在の日も多くなりますので、連絡事項はFAXやあるいはEメールのように、文字で残るようにしますと、意志の疎通がうまくいくでしょう。また電話の場合は留守録に必ずお名前と要件を入れてください。こちらから、問い合わせができるように上手に利用してください。新しい体制がスムーズに回転して行くよう努力します。

財政支援有り難くいたします

半世紀を超える過去の歴史では何度も財政的ピンチがあり、会費値上げで切り抜けたり、ご寄付を募ったりしたこともありました。なかでも初芝澄雄先生が口に出さないほどの「重荷」を背負ってくれましたし、故東出篤衛編集委員の遺志として夫人(会員)から200万円、大森委員長の葬儀の際にもご遺族から高額なご寄付がありました。復刻版の発行には安井先生が100万円余、二宮文乃先生も50万円。渡辺晋先生からも大口カンパのほかに、氏の編著「医家芸術目録抄」が大量に贈られました。

さらに、今期も小川先生ご夫妻から50万円のほか、数人の方から温かいご支援を頂きました。たとえ数千円単位でも、積もり積もれば大きな額となります。誌上を借りて、日頃のお力添えにお礼申し上げます。

執筆された機関連誌をお買い上げください

り、友人知人らに配られ新入会員を勧誘されるのも支援の一方法です。

◇

「医家芸術目録抄」創刊号（1967年9月）から554号（2003年12月）まで、掲載内容を目次から網羅。残部があります。ご希望の方は事務局へ。

渡部せつ子さんの「ギヤラリーコンサート」

美術展の会期中に特別出演してくれませう



7月2日から始まる医家美術展では、会期中にソプラノ歌手で二期会会員の渡部せつ子さんによるコンサートを開くことになりました。渡部さんは、アカデ

ミックなクラシックを学び、本格的なドイツ・リートを歌い続けて来ましたが、ここ数年来これまでとは異なったジャンルの昔懐かしいドイツ映画音楽の「嘆きの天使」（マレーネ・ディートリッヒ）、「夜のタンゴ」（ポーラ・ネグリ）、「故郷」（ツマール・レアング）、「会議は踊る」（リリアン・ハーヴェイ）等の歌曲を歌い、CDも出されています。

今回、小川再治（文芸）、昭子（洋楽）ご夫妻の紹介で、特別出演してくださいることになりました。

4日（土）午後を予定しています。曲目も先の映画音楽のほか、モーツアルトの曲もご用意されており、実現するのを楽しみにしています。

なおこの企画は、ほかの部の会員と交流を深めるため、洋楽部員らに会場内のコラボレーションを希望していました。が、それぞれ都合がつかせませんでした。

♪ 渡部さんのご挨拶 ♪ はじめまして渡部せつ子です。

私は今まで主にオペラ公演やドイツ・リート演奏会など比較的格式ばった環境で歌ってきました。勿論ドイツ・リートはこれからも歌っていく私の大事な糧ですが、一、二年前からやや別の分野の古いドイツ映画音楽を歌う機会にめぐり合い、当時の名優の魅力的なロマンスに溢れた姿や歌の数々に魅せられました。これらの名曲は戦前・戦後を通じて等しく老幼男女に広く親しまれ・愛され、私自身のコンサートやCDでも大きな反響を呼び起こしました。私はこれらの名曲の数々をドイツ語原語の発音や情感にこだわりつつ歌って、皆様にお聴き頂きたいと思っております。そして今後は、これらの名曲を皆様とともに歌い、楽しむことが出来ればとても嬉しいのです。

テニスやゴルフをしましょう

暖かい季節です。青空の下、体を鍛えましょう。日時など未定ですが希望者がそろえば企画します。またカラオケも人気が高いようです。事務局までFAXを。

(0423440879)

寄贈図書

『北京探訪』—知られざる歴史と今

愛育社 1800円 税別

盗用文化研究会編 会員の吉元昭治氏ら30人が執筆。北京市の歴史から始めて、中国文化の魅力をたっぷり語る。吉元氏は『道教から見たくすりと長寿』と題し、数千年にわたる漢方薬の歴史と古代の健康思想について執筆。

江戸川乱歩展を企画

神奈川県近代文学館

横浜市内・港の見える丘公園にある同館では、近く「江戸川乱歩展」を企画、

その資料にと、本クラブの座談会復刻版上下「探偵作家柴屋ばなし」を購読されました。式場隆三郎先生と乱歩氏の対談で、医者の探偵小説家は出るか……など話し合っています。お二人とも現在ご存命なら、どういのお顔をするか……。

なお、同館では4月29日から5月半ばにかけて「森岡外展」を開いています。会期中、平岩弓枝さんらの講演や朗読会もあり、高齢者の入館料は無料です。

「」寄付 122000円

3口(匿名氏)

新入会員()は紹介者

新谷 周三 〒302-0022 茨城県

取手市本郷2-1-1 取手協同病院

神経内科 希望はテニス部

丸井 英一 〒113-8421 東京都

文京区本郷2-1-1 順天堂大学医学部

公衆衛生学教室 公衆衛生学 文芸部

(以上 津谷喜一郎)

木原 深雪 〒812-8582 福岡県

福岡市東区馬出3-1-1 九州大学大学

院 精神看護学 文芸部・洋薬部

海老沢 功 〒158-0084 東京都

世田谷区東玉川1-19-7 公衆衛生学

文芸部 (以上 事務局)

大坪 公子 〒154-0024 東京都

世田谷区三軒茶屋1-21-5 三軒茶屋

病院 内科 洋薬部 (松木耀子)

越島康太郎 〒201-0015 東京都

狛江市猪方3-16-18 洋薬部

(小川昭子)

馬場 孝道 〒187-0023 東京都

小平市上水新町3-10-5 薬学

馬場絵里奈 住所右に同じ 洋薬部

(白矢勝一)

生田 義和 〒730-0811 広島市

中区中島町4-11 広島手の外科・微小

外科研究会 美術部 (江川政昭)

出来 尚史 〒270-0143 千葉県

流山市向小金3-72-2 蓮田病院

美術 文芸 内科 (白矢勝一)